

いちのほし どうひょう
市之橋の道標

大正14年(1925)におかれた道しるべです。東へは石の宝殿・高砂へ、西へは書写山・穴栗郡へ、南へは飾磨町・室津港へ、北へは広瀬山・増位へ」という意味の文字が彫られています。



けいふくじ
景福寺

瑞松山というよび方をする、禅宗(曹洞宗)のお寺です。姫路城の殿さまだった酒井家のご先祖さまとむらうお寺で、境内には江戸時代終わりごろの3代の殿さまの妻の墓が並んでいます。飾磨県の県庁の仮の建物にもなりました。北側にある山は景福寺山で、「播磨国風土記」という本に書かれている十四丘伝説の一つである「船丘」と思われます。



けんしょうじ
見星寺

禅宗(臨済宗)のお寺です。お寺の裏の墓地には鉄牛和尚(塚岡右衛門)の卵塔や、殿さまの本多忠政や本多忠刻の五輪塔があります。境内の菩提碑は、寛延2年(1749)にあった船場川の洪水被害の23回忌の法要(安永2年(1773))の時につくられました。



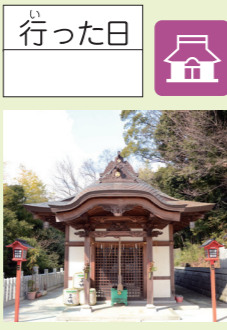
さいこくかいどう
西国街道

西国街道は京都・大阪から姫路城の城下町を通り、今の中国地方や九州地方につながっていた大切な道です。福中門から北に向かい、龍野町を通過していました。昔のこのあたりは姫路で一番にぎやかでした。今でも町家がまばらに残っていて、姫路初の商店街だったころの様子が残っています。



せんひめてんまんくう
千姫天満宮

姫路城を見渡せる男山の中ほどにある小さな神社で、本多忠刻と再婚した千姫が元和9年(1623)に、本多家の繁栄を願って建てたものです。お城の中から拝むことができるよう、東向きにつくられています。千姫は西の丸長局という建物の廊下から朝と夕方に毎日拝んでいたと伝わっています。



しら
**調べたこと、
わかったことを
書いてみよう!**



6 **城西地区**

船場川やお城から東や西へ向かう昔の道「西国街道」など、この地域は昔から交通ののちなめとなる大事な場所として栄えてきました。どんな役割があったのかを調べてみましょう。

城西小学校

千姫天満宮

水尾神社

景福寺

見星寺

森家住宅

千姫の小径

市之橋の道標

初井家

船入川

ふないりがわ

遺跡・史跡、歴史上の名所

神社・仏閣、歴史的建造物

歴史上の人物など

祭り、伝統行事

美術品

伝統芸能など

景勝

生物・花

町並み

etc その他

せんひめ こみち
千姫の小径

船場川と姫路城の堀の間にある遊歩道で、清水橋から白鷺橋の間にあります。桜の木が植えられていて、春にはとてもきれいに咲きます。



はつ い け
初井家

姫路を代表する文化人で歌人(和歌(短歌)をよむ人)の初井しづ枝の家です。北原白秋先生から教えを受けた初井しづ枝の作品は、姫路文学館におさめられています。初井家はやごうを「英賀屋」といい、主屋は弘化元年(1844)に建てられました。



ふないりがわ
船入川

江戸時代の初めから、船場川には高瀬舟という船が通行していました。炭屋橋の下を通過して船場川と合流する船入川は、荷物の積みおろしをしたり、船をとめておいたりする場所でした。今では小さな公園になっています。



みず おしんじや
水尾神社

もとは、伊和大明神をおまつりしていましたが、この神さまを播磨国総社へ移したことから、総社の元宮とよばれています。江戸時代の初めに大国主命を迎え、大年社歳徳大明神とよんでいましたが、明治時代の神仏分離という神社とお寺をはっきり区別する決まりができた時に、水尾神社と名前を変えました。



もり け じゅうたく
森家住宅

この建物は、棟札(建築の記録の札)によると、明治19年(1886)に建てられたことが分かっています。改造している部分が少ない、明治時代の町家の様子がよく残っています。平成2年(1990)、市の都市景観重要建築物等に指定されました。

